

学生の確保の見通し等を記載した書類

1. 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

ア 学生の確保の見通し

(1) 定員充足の見込み

以下に述べる受験対象者を対象としたアンケート調査結果^{資料1} ^{資料2}及び本専攻における研究指導体制を勘案し、入学定員を2名に設定した。

受験対象者とは、本研究科修士課程高度実践柔道整復師コースに在籍する6名であり、令和2(2020)年に博士課程設置認可の場合に、修士課程を修了して引き続き博士課程に進学可能な者である。

回答者6名中6名(100%)が「本研究科への進学を希望する」と回答している。

日本は超高齢社会を迎え、平成30(2018)年番高齢社会白書によれば、65歳以上人口は3,515万人で、高齢化率は27.7%である。65歳以上人口は令和24(2042)年に3,935万人のピークを迎え、その後は減少するが、高齢化率は上昇傾向にあると推計されている。このような超高齢社会を迎えるなか、健康寿命の延長には運動器障害に対する対応が不可欠である。その対策の一つとして、特別養護老人ホームや通所介護等で機能訓練を指導する機能訓練指導員の不足に対し、これまで一定の条件を満たすことで、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、看護職員、柔道整復師、あん摩マッサージ指圧師が機能訓練指導員の対象資格であったが、平成30(2018)年4月よりはり師、きゅう師も対象となった。これは機能訓練指導員の量的確保を目的とした対応であり、現状においても今後においても機能訓練指導員が不足していることを示している。そして、今後は機能訓練指導員の質も求められることになる。研究マインドや臨床研究の遂行能力を併せ持ち、機能訓練の質の向上に寄与できる人材は今後益々必要となる。すなわち、運動器の抗老化(アンチエイジング)を安全かつ効果的に実施する運動プログラムを立案、指導し、ロコモティブシンドロームの回避による健康寿命の延長に貢献する人材が強く求められている。このような社会的背景から、十分に学生を確保できる見通しがあると判断する。

(2) 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

① 保健医療学研究科運動器柔道整復学専攻(仮称)設置に関わるアンケート

平成31年1月下旬に本専攻の受験対象者6名を対象とし、専攻名称、開設時期、立地場所、学費、競合する大学院・研究科、設置の理念、養成する人物像を提示の上、アンケート調査(選択肢式計3問)を行った。^{資料1} ^{資料2}

② 基礎となる学部等の定員充足の状況

保健医療学部整復医療学科及び保健医療学専攻の定員充足の状況を集計した。ともに安定して定員を充足している。**資料3**

(3) 学生納付金の設定の考え方

教育の質を担保するためには、適切な学生納付金の設定が必要である。日本私立学校振興・共済事業団のデータをまとめた「私立大学等の平成28年度入学者に係る学納金等調査」(文部科学省ホームページより)によると初年度学生納付金(授業料、入学料、施設設備費の合計)については、博士後期課程の平均額(1人当たり)は873,871円である。

また、同系専攻を設置する大学院の学生納付金を参考とし、教育の質の維持と他大学院とのバランスを考慮して以下の通り決定した。**資料4**

入 学 金：300,000円(本学保健医療学専攻修了者については、全額を免除)
授 業 料：800,000円
健康管理費：10,000円

イ 学生確保に向けた具体的な取組状況

(1) インターネット等を利用した広報活動の展開

本学の教育・研究活動、クラブ活動、地域・社会貢献活動等に関する情報を広く社会に発信できるようホームページが開設されている。また、受験生や本学卒業生とのコミュニケーションツールのひとつとして、フェイスブックなどのいわゆるSNSを通じたリアルタイムでの情報提供にも努めている。また最近のスマートフォンの普及にあわせ、本学の最新情報を配信する専用のアプリケーションを整備している。

(2) 保健医療学部生及び保健医療学専攻生に向けた説明会の実施

① 新入生オリエンテーション期間での説明会実施

新入生オリエンテーションの一環として、保健医療学部新入生及び保健医療学専攻新入生に向けて当該専攻の説明会を実施する。

② 日体スキルアップセミナーでの説明会実施

夏期、冬期の年2回、全学部生を対象に日体スキルアップセミナーを実施している。これは主に職業観の醸成を目的としたプログラムで構成しており、この一環として、保健医療学部生に向けて保健医療学研究科の説明会を実施する。

③ 研究科所属教員による進学相談

保健医療学研究科を担当する専任教員のオフィスアワーを利用し、大学院進学希望者の個別進学相談を実施し、学生募集体制を強化する。

(3) 学生納付金の減免制度

① 本学修士課程修了者の入学金免除

本学保健医療学専攻修了者については、入学金(30万円)全額を免除する。

② 奨学金制度の活用

各種の公的な奨学金制度の活用を奨励する。

③ ティーチング・アシスタント制度の活用

保健医療学部整復医療学科の教育補助業務を行うことにより奨学に資する手当を支給する。

④ スポーツキュアセンターでのアルバイト

学生は「柔道整復師」であることから、保健医療学部附属臨床実習施設(スポーツキュアセンター横浜・健志台接骨院)におけるアルバイトにより奨学に資する手当を支給する。

2. 人材需要の動向等社会の要請

ア 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的(概要)

(1) 養成する人材像とディプロマ・ポリシー

運動器柔道整復学専攻では、3年以上在学して研究指導を受け、かつ16単位以上を修得し、さらに査読のある学術誌に筆頭著者として公表した原著論文についての学位審査に合格した者に学位を授与する。

運動器柔道整復学専攻が養成しようとする人材は以下の通りである。

① 運動器外傷・障害の施術と予防に関する臨床研究を実施できる人材

② 運動器の抗老化(アンチエイジング)を安全かつ効果的に実施する運動プログラムを立案、指導し、健康寿命の延長に貢献できる人材

③ 柔道整復の施術所(接骨院・整骨院)の社会的役割を創造し、研究成果を地域に還元できる人材

④ 開発途上国の医療・スポーツ分野において柔道整復の特徴を活かして活躍できる人材

⑤ 将来、上記の①～④の人材を養成する指導者・教育者、教員を指導し養成できる教育者を目指す人材

このような人材を養成するにあたり、本学の教育理念に基づき、独自の教育・研究プログラムを創造的に展開し、修了にあたって身につけておくべき知識や能力、態度等を以下のディプロマ・ポリシーとして掲げる。

ア. 知識・理解

- ①我が国の伝統医療である柔道整復術に関する歴史的背景、関係する法律を理解している。
- ②柔道整復術の高度専門職業人として運動器疾患に関する高度の知識を身につけている。
- ③スポーツによる運動器及び健康寿命への影響について高度の知識を身につけている。

イ. 分野固有の能力

- ①運動器外傷・障害に関する臨床研究を自律的に継続して実施し、柔道整復領域の学術的基盤の構築に寄与できる。
- ②健康寿命の延長に貢献するため、運動器の抗老化(アンチエイジング)を安全かつ効果的に実施する運動プログラムを立案、指導することができる。
- ③柔道整復の施術所(接骨院・整骨院)の社会的役割を創造し、健康寿命の延長に対する臨床研究の成果を地域に還元することができる。
- ④開発途上国の医療・スポーツ分野において柔道整復の特徴を活かして活躍できる。
- ⑤柔道整復領域の教育、臨床、研究をシームレスに連結し、柔道整復師養成における教育手法やシステムを開発・検証することができる。

ウ. 汎用的能力

- ①柔道整復領域の教育者あるいは研究者として高い倫理観に基づき、主体的に問題を解決できる。
- ②優れたコミュニケーション能力や協調性を有し、医療・福祉・スポーツ分野等他の関連する職種と連携することができる。

エ. 態度・姿勢

- ①柔道整復領域の教育者あるいは研究者として高い倫理観、豊かな人間性と生涯学び続ける姿勢を持っている。
- ②柔道整復術の実践により健康寿命の延長に医療の立場から貢献するという強い意志を持っている。
- ③最新の知見・技術の獲得を怠らず、専門性を高めることに努め、科学的根拠に基づいて柔道整復術を実践する姿勢を身につけている。

(2) 教育研究上の目的

運動器柔道整復学専攻では、『人間の生命や身体活動に関する諸問題について、総合的な分析・検討を加え、これを実践現場に還元する双方向的研究に取り組む』という本学の建学の精神に基づく研究目標を受け、保健医療学部の「深く保健、医療、福祉に関する専門的な学問の教授・研究、及び職業と社会生活に必要な教育を施し、

高い倫理観に基づく人間形成を重んじ、国民の保健衛生に寄与する」という教育理念を深化・発展させ、スポーツを医療の立場から支えて、こどもから高齢者に至るまで人々の心身の健康の維持と増進により QOL(quality of life;生活の質)の向上を図ることを使命としている。

従って、運動器柔道整復学専攻の目的は、修士課程で習得した能力を基盤とし、その能力を応用・発展させて柔道整復領域に活かしながら、柔道整復領域の臨床研究を自律的に継続して実施して、柔道整復領域の学術的基盤を構築することである。もって、柔道整復領域の臨床研究により、運動器疾患の予防や運動器の抗老化(アンチエイジング)に取り組み、ロコモティブシンドロームを回避することによって健康寿命の延長を図る人材の養成を目標とする。

このような「医療の立場からスポーツ・運動をサポートする人材の養成による競技スポーツの向上と健康寿命の延長」を目標にすると同時に、本学の伝統である当該領域の「教員の養成」という使命を果たし、教員を指導し養成できる教育者の養成も目標とする。

イ 上記アが社会的、地域的な人材需要の動向を踏まえたものであることの客観的な根拠

わが国では他のどの先進国も経験したことがない急速な高齢者人口の増加と少子化により、超高齢社会を迎えている。長寿国のなかでも平均寿命と健康寿命の差が大きいことも問題となっており、わが国の少子高齢化は国難とさえ呼ばれる状況にある。自立した生活ができない状態、すなわち要支援・要介護になった原因は、厚生労働省「平成 25 年国民生活基礎調査」によれば、第 3 位は認知症(15.8%)、第 2 位は脳血管疾患(18.5%)、第 1 位は運動器障害(25%)である。このことから健康寿命の延長には、運動器障害に対する対応が不可欠で、運動器の外傷・障害の予防や運動器の抗老化(アンチエイジング)を図り、ロコモティブシンドロームの回避に貢献する人材が強く求められている。

本専攻を設置しようとする神奈川県においては、平成 26(2014)年に「未病を治すかながわ宣言」を採択し、高齢者等を中心に健康寿命の延長を図る取り組みを進め、さらに平成 27(2015)年に「未病サミット神奈川宣言」を採択して「未病改善活動」を推進している。未病の改善は、「こども」、「女子」、「働きざかり」、「糖尿病など生活習慣病」、「介護予防・軽度認知障害」等、各世代の課題に応じて中長期的な取組として実施されている。これらのどの時期においても、それぞれの時期に適切な運動方法や種類、運動量についての指導や啓蒙が必要である。このような現状に対して柔道整復師が活躍できる場として、接骨院・整骨院のほかデイサービスでの機能訓練指導員等がある。しかしながら、現場で従事する柔道整復師に対する研究成果(柔道整復術のエビデンス)の還元や生涯教育の啓蒙は皆無といえる状況で、柔道整

復師が提供する医療の質が担保されていない状況にある。そのため、研究マインドを持つ臨床現場のリーダーが強く求められている。

また、柔道整復師養成は、専門学校と大学で行われ、専門学校が過半を占める状況であるが、専門職大学を設置する機運もある。専門職大学における専任教員については、「実務家教員」「研究者教員」に区分し、専任教員数に対する割合が、「研究者教員」が概ね6割まで、「実務家教員」が概ね4割以上とされ、「実務家教員」のうち概ね2割以上が「研究能力を併せ有する実務家教員」であることが求められている。柔道整復領域において、「研究者教員」や「研究能力を併せ有する実務家教員」が備えておくべき能力等について組織横断的な取り決めがなく、これらの教員は養成されていないといっても過言ではない。本専攻が養成しようとする「柔道整復の養成施設で臨床研究を実践し、教員を指導し養成できる教育者」は、専門職大学の教員要件である「研究能力を併せ有する実務家教員」や「研究者教員」になり得る。これにより、高等教育化への障壁である柔道整復領域の「研究能力を併せ有する実務家教員」と「研究者教員」の深刻な人材不足が解消され、柔道整復領域の高等教育化の推進に再びスイッチが入ることが期待できる。

修了後の就職先としては、大学、専門学校や専門職大学の他、医療機器メーカーや医療系出版社等が、本専攻で養成する柔道整復師の資格を持ち、臨床経験と研究マインドを持ち、現代医療の進歩に追随しつつ健康寿命の延長に取り組み社会に貢献しようとする人材を求めている。具体的には、医療機器製造販売のインターリハ株式会社や株式会社日本メディックス、医療系出版社の医道の日本社、その他、日本を代表する画像診断機器メーカーや医療系模型メーカーが採用を前向きに検討している。特にインターリハ株式会社では、博士の学位を取得した理学療法士、義肢装具士や健康運動士を採用しており、本専攻の修了生についても積極的に採用を検討したいと表明している。

以上のことから、本専攻が養成しようとする人材に対する需要が極めて高いことが明らかである。

学生の確保の見通し等を記載した書類

資 料 目 次

【資料 1】

保健医療学研究科運動器柔道整復学専攻（博士課程）設置に関わるアンケート

【資料 2】

保健医療学研究科運動器柔道整復学専攻（仮称）設置に関わるアンケート結果集計表

【資料 3】

保健医療学研究科保健医療学専攻及び保健医療学部整復医療学科の入試状況

【資料 4】

競合校との学生納付金比較

日本体育大学大学院保健医療学研究科長
平沼 憲治

保健医療学研究科運動器柔道整復学専攻（博士課程）設置に関わるアンケート

この度、日本体育大学では、本学保健医療学部整復医療学科及び保健医療学研究科保健医療学専攻高度実践柔道整復師コース（修士課程）を基礎とする専攻として、保健医療学研究科運動器柔道整復学専攻（博士課程）の設置準備をすすめております。

このアンケートは、本専攻への出願資格を有する方々を対象に進学希望などを調査し、専攻設置の参考資料とするものです。下記の概要を参照のうえ、アンケートの回答にご協力ください。

運動器柔道整復学専攻（博士課程）の概要

- ◇名称：保健医療学研究科 運動器柔道整復学専攻（博士課程 修業年限3年）
- ◇開設時期：平成32（2020）年度4月
- ◇立地場所：神奈川県横浜市青葉区鴨志田町1221-1（日本体育大学 横浜・健志台キャンパス）
- ◇学費：入学金 300,000円、授業料 800,000円、健康管理費 10,000円
- ◇競合する大学院・研究科：
 - 帝京平成大学大学院 健康科学研究科 健康科学専攻 柔道整復学分野（博士課程 修業年限3年）
 - 東京有明医療大学大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻 柔道整復学分野（博士後期課程 修業年限3年）
- ◇設置の理念：

柔道整復術の特性を活かし、運動器外傷の施術と予防に関する臨床研究を実施できる能力を養成し、わが国の超高齢社会における課題である健康寿命の延長に取り組む人材を育成する。
- ◇養成する人物像（ディプロマポリシー）：
 - ア. 知識・理解
 - ・我が国の伝統医療である柔道整復術に関する歴史的背景、関係する法律を理解している。
 - ・柔道整復術の高度専門職業人として運動器疾患に関する高度の知識を身につけている。
 - ・スポーツによる運動器及び健康寿命への影響について高度の知識を身につけている。
 - イ. 分野固有の能力
 - ・運動器外傷・障害に関する臨床研究を自律的に継続して実施し、柔道整復領域の学術的基盤の構築に寄与できる。
 - ・柔道整復の施術所（接骨院・整骨院）の社会的役割を創造し、健康寿命の延長に対する臨床研究の成果を地域に還元することができる。
 - ・柔道整復領域における教育手法やシステムを開発・検証することができる。
 - ウ. 汎用的能力
 - ・教育者あるいは研究者として高い倫理観に基づき、主体的に問題を解決できる。
 - ・優れたコミュニケーション能力や協調性を有し、医療・福祉・スポーツ分野等他の関連する職種と連携することができる。
 - エ. 態度・姿勢
 - ・高い倫理観、豊かな人間性と生涯学び続ける姿勢を持っている。
 - ・柔道整復術の実践により健康寿命の延長に医療の立場から貢献するという強い意志を持っている。
 - ・最新の知見・技術の獲得を怠らず、専門性を高めることに努め、科学的根拠に基づいて柔道整復術を実践する姿勢を身につけている。

（注）専攻名称、学費等は予定であり、変更となる場合があります。

該当する番号に○をつけてください

問1. 左記専攻へ進学したいと思えますか。(単一選択)

- 1 進学を希望する
- 2 進路先の候補の一つとして考える
- 3 進学を希望しない

問2. 問1で1、2のいずれかを選択した方に質問です。

あなたが大学院博士課程で学ぶ目的は何ですか。(複数選択可)

- 1 学位取得
- 2 研究能力や知識の向上
- 3 臨床経験を積む
- 4 大学教員や他の院生とのネットワークづくり
- 5 管理職などへのキャリア形成
- 6 国際経験を積む
- 7 その他 ()

問3. 本専攻における授業開講の希望時間帯を選択してください。(単一選択)

- 1 平日昼間
- 2 平日夜間
- 3 週末昼間
- 4 週末夜間
- 5 その他 ()

ご協力ありがとうございました。

保健医療学研究科運動器柔道整復学専攻（仮称）
設置に関わるアンケート結果集計表

◆調査方法

研究科・専攻名称、開設時期、立地場所、学費、競合する大学院・研究科、設置の理念、養成する人物像を提示の上、アンケート調査(選択肢式)を行った。

◆調査対象 日本体育大学大学院保健医療学研究科保健医療学専攻高度実践柔道整復師コース生6名

◆調査内容 選択肢式計3問の質問

◆調査時期 平成31年1月下旬

問1. 条件が整えば、本専攻へ進学したいと思いませんか。

進学希望	人数	割合
進学を希望する	6名	100%
進学先の候補の一つとして考える	0名	0%
進学を希望しない	0名	0%

【問1で「進学を希望する」と回答した6名への設問】

問2. あなたが大学院で学ぶ目的は何ですか？（複数選択可）

目的	人数	割合
学位の取得	6名	100%
研究能力や知識の向上	5名	83%
臨床経験を積む	2名	33%
大学教員や他の院生とのネットワークづくり	3名	50%
管理職などへのキャリア形成	0名	0%
国際経験を積む	1名	17%

【問1で「進学を希望する」と回答した6名への設問】

問3. あなたが大学院に通う場合、どのような時間帯を希望しますか。（単一選択）

時間帯	人数	割合
平日昼間	0名	0%
平日夜間	6名	100%
週末昼間	0名	0%
週末夜間	0名	0%

資料3

保健医療学研究科保健医療学専攻及び保健医療学部整復医療学科の入試状況

区分	項目	平成30年度	平成29年度	平成28年度	平成27年度	平成26年度
保健医療学研究科 保健医療学専攻 (平成30年度開設)	志願者数	11				
	受験者数	11				
	合格者数	9				
	入学者数	9				
	入学超過率	1.12				
保健医療学部 整復医療学科	志願者数	168	226	214	177	129
	受験者数	162	220	207	170	126
	合格者数	109	106	113	108	121
	入学者数	92	94	99	99	99
	定員超過率	1.02	1.04	1.10	1.10	1.10

保健医療学研究科保健医療学専攻は平成30年4月開設のため過去1年間の集計数を示す。

競合校との学生納付金比較

大学名	研究科名	入学金(初年次のみ)	授業料	その他	初年次合計
日本体育大学	体育科学研究科	300,000	738,000	10,000	1,048,000
	教育学研究科 (実践教科教育学専攻)	300,000	800,000	10,000	1,110,000
	保健医療学研究科 (運動器柔道整復学専攻)	300,000	800,000	10,000	1,110,000
帝京平成大学	健康科学研究科	200,000	760,000	202,600	1,162,600
東京有明医療大学	保健医療学研究科	300,000	1,000,000	200,000	1,500,000